



| 目 次 | |
|----------------|-----|
| ●副会長あいさつ | 1 |
| ●県教頭会ブロック大会の報告 | 2～3 |
| ●専門部活動報告 | 4 |
| ●関ブロ山梨大会報告 | 5 |
| ●郡市教頭会ネットワーク | 6～7 |
| ●特集 | 8 |
| ●随想 | 9 |
| ●教育懇談会報告 | 10 |



「自然の豊かさ」「人の豊かさ」

新潟県小中学校教頭会

副会長 **中野 民生**

(新潟市立木戸中学校)

秋のいもり池から臨む妙高山 (上越ブロック)
 弥彦山とはさ木・大河津分水 (中越ブロック)
 大佐渡に残る関の天然杉 (下越Aブロック)
 紅葉に映える麒麟山と麒麟橋 (下越Bブロック)

第51回新潟県小中学校教頭会研究大会、第9回ブロック別研究大会が、10月30日に開催されました。

各ブロックの大会要項を並べてみると、表紙を飾る写真それぞれから、新潟県の自然の豊かさを改めて感じ取ることができます。さらに要項を開くと、主管教頭会の実行委員会及び研究部を中心として、この研究大会に向けて力を結集し、まさに『チーム教頭会』で取り組んだ跡を読み取ることができます。

本会報には「ブロック別研究大会の報告」が掲載され、研究部からは後日「成果と課題」がまとめて出されます。「自立・協働・創造」に向けた一人一人の主体的な学びを保障する学校づくりの中核となる教頭の在り方を追究した取組について、全会員で共有し、次年度の実践に確実に繋げていきましょう。

私は、五十嵐会長の代理として下越Bブロック研究大会「阿賀大会」に出席しました。当日、受付時間前に津川の町を車で廻ってみました。あいにくの天候で、麒麟山は雨の中でした。そこから全体会会場の阿賀町文化福祉会館に向かう途中、「教頭会」という黄色い看板と、国道に出る交差点で防寒具を着て立つ実行委員の方の案内のおかげで、道を間違わずに会場入りすることができました。そして、研究大会閉会后、すっかり暗くなった津川の町をもう一度廻って国道方面に向かうと、交差点に防寒具を着て立つ実行委員の方の姿を見つけました。私はそ

の場で直接ねぎらいの言葉を掛けることもできず、「ありがとうございました」と心の中でつぶやき、人の豊かさを感じながら津川の町を後にしました。

振り返れば昨年度、下越Bブロックは全県研究大会を主管し大成功を収めました。津川でのことは『チーム教頭会』が研究だけではなく、大会運営面でも継続性・協働性・関与性を確実に引き継ぎ「能動的に学び続け」ていることを表していると思います。きっと他のブロックでも同様に、50年目の成果を51年目に生かしていただけたものと確信しています。

話は変わりますが、10月3日、公益社団法人日本教育会第40回全国教育大会佐賀大会が佐賀市で開催されました。私は佐賀大会に参加し、全国からの参加者を温かく丁寧にもてなす佐賀県支部の大会運営の素晴らしさを感じてくることができました。そして、平成28年10月1日には、第41回全国教育大会新潟大会が、新潟市の新潟県民会館で開催されます。私たち新潟県小中学校教頭会は「会場部」として、会場設営・駐車場誘導他の役割を担います。大会参加と併せ、郡市教頭会長を通して協力をお願いすることになりますので、日程を調整し、空けておいてください。

季節は冬から春に移り、妙高山・弥彦山・天然杉・麒麟山は新潟県の自然の豊かさを見せてくれることでしょう。そんな自然の豊かさに負けないよう、私たちは全国からの参加者に新潟県の人の豊かさを感じていただくことができる、そんな新潟県小中学校『チーム教頭会』として頑張っていきたいと思います。

県教頭会ブロック大会の報告



上越ブロック研究大会の 成果と課題

上越ブロック研究大会研究部長

中尾 慶一

(妙高市立妙高中学校)

妙高市総合体育館（はね馬アリーナ）を会場に、上越ブロック研究大会が開催されました。3分科会の協議等を通して見えた成果と課題を、以下に報告いたします。

[成果]

- 1 これから小中一貫教育を始める学校や、取り組み始めたばかりの学校にとって、既に継続実践している学校の成果を聞くことで、教頭の役割が分かり、今後の見通しをもつことができた。
- 2 アンケートでは、すべての項目で95%を超える肯定的評価をいただいた。特に、分科会での少人数によるグループ協議については、100%の肯定的評価だった。全会員にとって、有意義な大会になったと感じている。
- 3 開催の1年以上前から組織を編成して計画的に実行委員会を開催し、共通理解を図りながら取り組むことができた。妙高市教頭会は少ない会員数だが、上越市教頭会の応援をいただきながら、会場準備や当日運営を円滑に行うことができた。

[課題]

- 1 コミュニティ・スクールや小中一貫教育の窓口は教頭であることが多い。職員に役割と責任をもたせることで、職員の意識も高まり一体感が生まれてくる。その組織をどのように築いていくかが課題である。
- 2 アンケートでは、4%の会員が大会期日について改善を要すると評価した。また、欠席した会員も複数人に上った。音楽祭等の学校行事と重なる時期だが、本研究大会の実施期日の設定方針を、早めに確実に周知し、全会員の参加につなげる必要性を強く感じた。

参加した会員から、教育活動の中核となる教頭の在り方を追究することができたという声が多く聞かれました。会員同士が学び合い、資質を高める場になったことを嬉しく思います。最後に、御後援、御指導をいただきました関係諸機関及び指導者の皆様、上越地区ブロック教頭会の皆様に感謝申し上げ、報告とさせていただきます。



施設部の舞台裏

上越ブロック研究大会施設部長

上野 朋栄

(加茂市立加茂南小学校)

施設部を推進するにあたり、悩んだことは次の2点である。

- ①ステージ上に掲示する横看板を安く作ること。
- ②できるだけ短時間で会場設営すること。

①の看板について業者に費用を聞いてみると、「4～5万円」という回答に、開会式のわずか1時間弱しか必要のない看板に、「それだけの金額をかけるのは勿体ない」と考えた。

そこで、「校内にある拡大機をうまく活用できないか」と考えた。字の大きさ、字形、形、色、配置等に苦慮しながら2回の試作の末、古谷実行委員長からGOサインが出て自作することになった。

②の会場設営については、吉田産業会館は会場費がいらぬこと、看板代を浮かせたことなどの理由から、シルバー人材を活用し労働力の削減を図った方がよいことを事務局より提案されていた。

そこで、当日の準備可能時間、仕事量、シルバー人材を含めた準備可能人数、費用等を加味したタイムテーブル作成が最大の課題となった。加茂・田上の施設部員に理解してもらうためのタイムテーブルと、シルバー人材に理解してもらうためのタイムテーブルの2種類を作成することにした。

事前準備の甲斐があり、当日は予定以上の進捗で会場設営が進んでいった。加茂・田上の施設部員が到着する11時頃には会場設営は終わり、駐車場の誘導のみとなっていた。しかし、正午前後からの暴風雨で駐車場係は、全身ずぶ濡れになりながらの誘導に胸が痛かった。

最後に、大勢の方から助けていただき無事に責任を果たせたことに心から感謝申し上げたい。

県教頭会ブロック大会の報告



下越Bブロック 研究大会の報告

下越Bブロック研究大会実行委員長

高田 良昭
(阿賀町立津川小学校)

今年度の下越Bブロック研究大会は、東蒲原郡小中学校教頭会・五泉市小中学校教頭会・阿賀野市小中学校教頭会が主管となって行いました。

当日の分科会の概要は、以下のとおりです。

(第1分科会) 教育課程に関する課題

「保護者や地域と連携・融合した教育活動の推進」

提言者：新発田市立二葉小学校 土田 利康

支援者：新発田市立紫雲寺小学校 飯塚 進

教頭会が組織的に保護者・地域と連携・融合した教育活動の推進を支援することは有効な取組の一つであることが共通理解できました。

(第2分科会) 子どもの発達に関する課題

「特別な支援を要する児童生徒への支援に向けた教頭の役割」

提言者：村上市立村上第一中学校 長谷川裕高

支援者：村上市立神納中学校 石崎 晃一

子どもの発達をつなぐ校種間連携及び関係機関との連携を郡市教頭会が核になって積極的に行っていくことが重要であると確認できました。

(第3分科会) 副校長・教頭の職務内容や職務機能に関する課題

「危機管理意識を高める研修の在り方」

提言者：五泉市立愛宕中学校 佐藤 昌樹

支援者：五泉市立愛宕小学校 堰 毅

教頭が要になり、学校の危機管理の徹底と教職員の意識の啓発を進めていくことの重要性が確認されました。

どの分科会も会員が自校の現状や自分の考えを積極的に述べて意見交換を行いました。教頭としての資質を高め合える協議となりました。

また、阿賀町で初開催ということもあり、当初は戸惑いもありました。しかし、各教頭会から選出された実行委員や各部の皆様から真摯にそして精力的に業務を進めていただき、大会を無事に終了することができました。本当にありがとうございました。



下越Aブロック 研究大会の報告

下越Aブロック研究大会副実行委員長

樋口 重正
(佐渡市立畑野中学校)

平成27年10月30日、第9回下越Aブロック研究大会(佐渡大会)が、あいぽーと佐渡と佐渡汽船南埠頭ビルを会場にして開催されました。

本研究大会は、全国公立学校教頭会研究大会の第10期統一研究主題である「豊かな人間性と創造性を育む学校教育」(キーワード 生き抜く力・絆づくり)のもと、サブテーマ「生涯にわたって能動的に学び続ける子どもを育む学校づくり」の2年次研究となっていました。第1分科会では「防災教育の推進」、第2分科会では「特別支援教育の推進」、第3分科会では「キャリア教育の推進」について提言・協議を行い、下越教育事務所、新潟市教育委員会、佐渡市教育委員会よりお招きした指導者の皆様から御指導をいただきました。

各分科会の成果や課題を、教頭の役割や姿勢を視点にしてまとめると次のようになります。

○ 教頭が地域との窓口となって進める防災教育の意識改革、実効性のある防災管理と組織活動が重要である。(第1分科会)

○ インクルーシブ教育構築のため、教頭は基礎的環境整備を推進し、合理的配慮の合意形成をコーディネートしなければならない。(第2分科会)

○ 教頭はキャリア教育の充実のため、「知らせる」「支える」「育てる」「広げ近づける」の観点から教職員のコーディネート力を高めなければならない。(第3分科会)

また、どの分科会でも「連携」「率先」「推進役」「調整」などの言葉をキーワードにしながら協議が進められ、参加者の学校運営に対する熱い思いが伝わってきました。

佐渡市会場ということで、会場設備や交通の面で御迷惑をおかけした点多々あったかと思いますが、指導者や参加者の皆様の御協力のおかげで無事に終了することができました。改めて御礼申し上げます。

専門部活動報告



調査要請部の活動報告

調査要請部長

宮本 透

(新潟市立江南小学校)

調査要請部では、今年度も次の2つの調査事業を柱に活動を展開しました。

- 1 勤務実態調査（本県独自）及び全国公立学校教頭会基本調査実施と報告書作成
- 2 「平成28年度新潟県義務教育の振興に関する要望書」の基礎資料作成のための調査実施と意見報告書作成

詳細は、年度末発行の報告書をご覧ください。

一端を紹介しますと、朝7時以前に出勤している会員の割合が39.6%、夜20時30分以降に退勤する割合は29.7%で、ともに昨年をさらに上回り、依然増加傾向が続いています。昨年度13%だった「睡眠時間5時間未満」の教頭が、今年度は16%に増加しています。そして、身体的・精神的疲労を感じている会員も64%から68%に増加しています。さらに、多岐に渡る教頭の職務の中で「負担に感じている職務」と「主に時間と労力を費やしている職務」として、どちらも「依頼文書処理・各種調査依頼への対応」を選んでいる割合が、最も多くなっています。

こうした実態を見ると、教頭の職務改善はまだまだ進んでいない実態にあると言わざるを得ません。全公教と連携し、教頭の厳しい勤務実態を関係機関に訴えていきたいと考えています。

要望書への調査では、要望数が多い順に「学力向上及び生徒指導の充実に向けた人的配置の拡充」(599人)、「きめ細かな指導の実現に向けた、6学級規模小学校への級外教員配置及び中学校学級担任複数配置の拡充」(446人)、「特別支援教育の将来展望を見据えた教員の採用・人事配置及び人材育成のための制度の拡充」(433人)となりました。今後も校長会と連携し要請活動を展開していきます。

最後に、アンケートの実施・回収・処理に当たり、県内23郡市教頭会長、郡市教頭会事務局はじめ、会員の皆様に多大なるご協力とご支援をいただきました。深く感謝し、心より御礼申し上げます。



教育課題部の活動報告

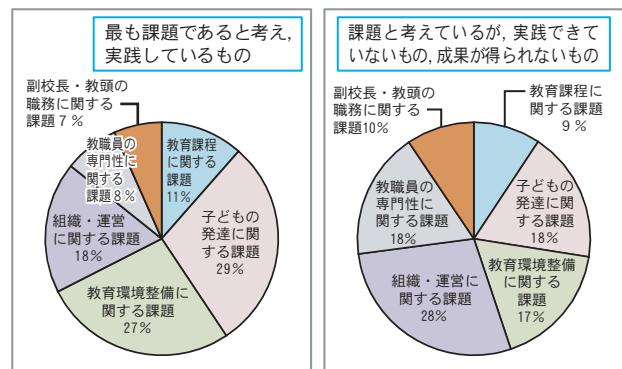
教育課題部長

星 徹

(長岡市立東中学校)

10月30日(金)に、第51回新潟県小中学校教頭会研究大会第9回ブロック研究大会が開催されました。教育課題部では、本研究大会のサブテーマ「追究の窓口と実践の視点」を踏まえ、会員が「自身の実践」を省みる機会とし、また、「仲間の受け止めや実践」を知る機会としてアンケート調査を実施しました。校務多用の中、皆様からアンケートに御協力いただきありがとうございました。

第2課題「子どもの発達…」を選択した割合が29%と全課題の中で最も高く、その中の特別支援教育に対する意識が高いことが指摘されています。校内の支援体制の取組が定着しつつあるという報告があります。それとは別に「組織・運営に関する課題」について成果が得られていないという分析(26年度22%⇒27年度28%)が見えます。



それを含め、課題追究の窓口を視点とした次項以降の分析からは、教頭が直面し始めている具体的な課題が見えています。

集約・考察の詳細は、県教頭会ホームページや「調査報告書」(年度末発行)を御覧ください。そこには、各校における具体的な実践と改善のヒントが多く記載されています。これからの皆様の取組に役立てていただけるものがきっとあると思います。

近隣校、郡市教頭会レベルからの教頭ネットワークにより、各中学校区等を基盤とした課題解決を試みていくことで、各校の教育活動の充実拡充を期待したいと思います。

関ブロ山梨大会報告



忘れられない山梨大会

三条市小中学校教頭会

馬 淵 史 子

(三条市立栄北小学校)

「山梨ってどうやって行くのだろう？」

関ブロ山梨大会に提言者として参加することが決まったとき、最初に考えたのは、このことでした。数十年間生きてきて、あまり縁のない土地だからです。しかし、6月の事前研修会で新幹線とあずさ号を乗り継ぎ、甲府駅へ降り立った時は、駅前の風景が新潟駅に似ていて、少しほっとしました。

11月の大会では、1日目に山梨県出身の直木賞作家 林真理子さんの講演を聴きました。私は、エッセイなどを読んでいたのでとても分かりやすく、「もう、終わりなの？」と感じたくらいでした。

2日目は、いよいよ分科会での提言発表。テーマは「小中一貫教育における児童生徒の社会性育成へ向けた教頭の役割」です。ここに至るまでに三条市小中学校教頭会で何度も協議し、発表の修正をしたり、各中学校区の取組について情報収集したりしてきました。そのおかげで当日は安心して発表することができました。2名の指導者からは、活動の目的を明確にして教職員を指導することや小中それぞれの方向付けをしていくことの重要性など、今後の示唆と多くの激励をいただき、参加して良かったと思っています。また、同じ分科会の山梨県の提言者 茅野賢一先生は、特別支援教育の充実と教頭のかかわりをテーマに発表され、その内容を聞くことは大変勉強になりました。

その他、同じ分科会の山梨の先生方には、会場から富士山がよく見える場所を案内していただいたり、おいしいお土産を紹介していただいたりと、とても親切にいただきました。

振り返ってみると1年前にこのお話を受け、最初は戸惑いましたが、周りの方々のご指導やアドバイス、お心遣いに触れ、忘れられない経験をさせていただいたと感謝しております。関わってくださった皆様、たいへんありがとうございました。

そして、最後に一言。「山梨っていいところだな。」



「豊かな人間性と創造性を育む学校教育」
～「たくましい力」と「しなやかな心」を
育む学校づくり～」

溝 井 智 美

(新潟市立赤塚中学校)

第56回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会 山梨大会は、コラニー文化ホール、甲府市内各ホテル・会議場を会場として、11月12、13日の2日間にわたり盛大に開催された。

開会式では、上田直人会長から「有意義な時間を共有し、自身の自己改革の職能につなげていこう」との挨拶があった。そして、ご挨拶をいただいたすべての方が山梨県出身の大村智・北里大特別栄誉教授のノーベル医学・生理学賞受賞をととても喜んでるのが印象的だった。まさに、郷土愛を感じた開会式であった。

記念講演は山梨県出身である作家の林 真理子さんが「私の仕事から」と題しての講演を行った。コピーライターになるまでのいきさつや人気作家としての生活、そして、直木賞受賞に至る背景など、ユーモアを交えてのお話は、楽しくあつという間だった。

2日目は、6課題・14分科会が開催された。私の参加した第二課題、第2B班では、「子どもの発達に関する課題」という分科会課題を掲げ、午前と午後それぞれに提言発表があった。その後、小グループで、「すべての教職員が主体的にかかわる特別支援教育」「情報モラル教育の教育課程への位置づけと教頭のかかわり」について熱心に協議を行った。新潟県のみならず、関東甲信のさまざまな取組や実践など、率直に意見を交わすことができ、自校にかすための方策や手立てなどの参考となり、有益な協議会であった。

最後に各分科会ごとに閉会式を行い、大会宣言を採択して2日間にわたる研究大会の幕を閉じた。

地域は変わっても教頭としての重責を多くの方が頑張っていることを直接感じ、私も頑張ろうという気持ちを新たにすることができ、とても充実した2日間だった。

郡市教頭会ネットワーク



充実した活動を目指して

長岡市三島郡小・中・総合支援学校教頭会
会長 **黒田 茂男**
(長岡市立表町小学校)

1 はじめに

当教頭会は、平成22年の長岡市と川口町の合併を経て、小学校60校、中学校28校、総合支援学校1校、高等総合支援学校1校、新潟大学附属小中学校2校の計92か校、93名の会員で構成されています。本教頭会の目的は、「教頭の立場から学校の管理運営について研究し、長岡市と出雲崎町の教育の推進に努めるとともに、会員相互の親睦と福祉増進を図ること」を目的としています。

2 組織と研究

当教頭会には、総務、厚生、研修、調査要請の4つの委員会があり、全会員がいずれかの委員会に所属しています。総務委員会を除いて、会員は毎年所属する委員会が変わります。3年間で3つの委員会を経験することになります。これにより、会員の所属意識や協働性を高めてきました。

また、ブロック研修も特色の1つです。学校を6つのブロックに分け、少人数で研修を深める場を設けています。今年度は、中越ブロック研究大会で、当教頭会が第3分科会「組織・運営に関する課題」の提言発表をしました。そこで、各ブロックで第3分科会のテーマについて協議をする研修会を実施しました。全会員が課題を共有することで、当事者意識をもって研究大会に臨むことができました。

その他に、研修委員が中心となって企画・運営する3回の全員研修会や調査要請委員による調査研究、厚生委員による親睦会など、1年を通して節目となる活動が充実したものになっています。

3 おわりに

自立・協働・創造に向けた一人一人の主体的な学びを保障する学校づくりの重要性が高まる中、教頭が組織の中核として、その力量を遺憾なく発揮できることが重要です。教頭会の活動をより充実させ、互いに切磋琢磨しながら、管理職としての指導力や資質・能力の向上と意識の高揚を図っていきます。



資質向上と市内各機関と連携した取組の推進

小千谷市小・中・特別支援学校教頭会
副会長 **廣川 乗**
(小千谷市立小千谷中学校)

当会は、小学校8校、中学校5校そして特別支援学校1校の計14校、15名の教頭で組織されています。

教頭としての資質向上と市内各機関との確かな連携を目指して、以下の取組を推進しています。

1 組織と計画づくり (年2回の総会)

5月に総会を行い、役員・事業計画を決定し、研修計画を検討しました。2月には実施した事業と研修を報告し、その成果を次年度に生かします。また、4月に校長・教頭合同会議と歓迎迎会、1月に新年会を行い、互いに顔の見える、連絡を取り合える関係を築いています。

2 教頭としての資質向上 (年4回の研修会)

当会の組織として学校経営委員会と研修委員会を位置付け、委員長のリードのもと、課題研修を行っています。今年度は、①中学校区ごとの学校間連携の取組、②個人情報管理、③多忙化解消の取組等を取り上げ、各校が資料を持ち寄って研修し、自校の取組に役立てました。また、市長様そして市教育委員会管理指導主事様から毎年お一人ずつ、示唆に富む内容の濃いご講話をいただいています。

3 市内各機関との連携 (教育委員会や高校教頭会)

各校は、市から全面的なバックアップをいただき、思う存分教育活動を展開することができています。市が推進する「おちやっ子教育プラン」の作成に、各校そしてPTAも参画しています。3年間のプランの中には「学校の役割」と「家庭の役割」が明記され、それに拠って各校の教育活動が具体化されています。また、今年度から「おちやしごと未来塾」として、市や高校と連携して、中学生が地域の産業や企業を理解するキャリア教育の取組を実施しました。小千谷・川口地区中高連携教頭連絡協議会を立ち上げ、より緊密な中高連携の取組も始めました。

当会は15名と少人数です。その良さを生かして、子どもたちのために、教頭会としてまた会員一人一人がネットワークを広げ、更に活動を充実させます。

郡市教頭会ネットワーク



全会員の有機的な 関係づくりを目指して

新潟市小学校教頭会

松野 孝雄

(新潟市立万代長嶺小学校)



研究大会の計画・運営を 通して繋がる教頭会

新発田市・北蒲原郡小中学校教頭会

会長 伊藤 浩

(新発田市立七葉中学校)

1 全員研修会

新潟市小学校教頭会は、115校・118名の教頭で組織している（3校が複数配置校）。その全会員を対象とした「新潟市小学校教頭会全員研修会」を11月17日に以下のように開催した。

○ テーマ：「子どもとSNSの関係を考える」

○ 第1部：パネルディスカッション

NAMARA代表様・NTTドコモケータイ安全教室インストラクター様・新潟市中教研生徒指導部長様・小学校教頭会研修部長の4名が、現在の子どもをめぐるスマートフォンやSNS等の実態や指導について語り合った。

○ 第2部：ワークショップ

参加者が20グループに分かれ、ファシリテーションで話し合い、小学校の現場として何をすべきかを話し合った。

○ 第3部：ミニ講話・講評

パネルディスカッションで登壇していただいた3名の方から、講評やミニ講話をしていただいた。

◇ 当日の様子は新潟日報で紹介された。

2 総務会

会長・副会長・事務局・各区代表・専門部長が集まり、年8回開催している。新潟市小学校教育全体を視野に入れながら次の活動を行っている。

○ 教育委員会学校支援課からの御指導

○ 教頭会の活動の企画・調整

○ 情報交換

3 各区教頭会

8つの行政区ごとに、会員が集まって、年8回開催している。各区の実情に応じながら次の取組を行っている。

○ 教育委員会教職員課からの御指導

○ 総務会報告

○ 情報交換

○ 各区ごとの小中合同教頭会

当教頭会は、新発田市の小学校21校、中学校10校と北蒲原郡聖籠町の小学校3校、中学校1校で構成されています。活動組織としては、新発田市と聖籠町は別々になっています。

新発田市小中教頭会は月毎に行われる定例の教頭会の活動は小中ごとに活動を行っていますが、年3回小中合同で研修会を開催しています。市の教育長様や学校教育課課長様を講師としてお迎えし、市の課題を踏まえつつ、管理職として大切なことを再確認したり、新しい視点をいただいたりする大事な機会となっています。また、特徴的なことは、事務職員の方との研修会です。日々の職務を遂行するにあたり、教頭と事務職員の方との情報交換やコミュニケーションによる協働は、今後の学校づくりに欠かせないポイントです。事務職員の方々と意見を交換しながら、市全体の学校教育の充実を目指しています。

聖籠町教頭会は、学校数が少ないことがフットワークの軽さになっており、すぐ集まったり、連絡を取りあったりすることができています。結束力が非常に強い教頭会です。聖籠町は「コミュニティスクール」を町として取り入れており、地域と学校が連携して教育を進めています。それだけに要になって活躍しているのは各校の教頭先生方です。教頭会で情報交換を密にして各校の運営に生かしています。

昨年度行われた「第50回新潟県小中学校教頭会研究大会」では、当教頭会が胎内市教頭会と共に、研究大会を計画・運営しました。多くの参会者の方を迎えることの準備や少しでも多くの達成感を持って帰路についていただくためにどうしたらよいかの議論を重ねたことで、地区全体の教頭同士の顔が見える強いネットワークを構築することができました。そして、課題を抱えた時の解決策を校種や地域を越えた視点で互いに支援が得られるようになったことが大きな財産となって現在の活動を支えています。

特集

共に聴き合い、高め合う集団づくりを
土台にしてキャリア発達を促す取組

魚沼市小中学校教頭会

大島 一 英
(魚沼市立堀之内小学校)

当校は、児童数 363 名、学級数 17（特別支援学級 5 を含む）の学校です。当校では、次の 2 点を大切にしながら、キャリア教育で目指す子どもの姿を設定しています。

- 自立意欲や社会性を育成するための基盤づくりの段階として位置付ける。
- 他者と積極的に関わること、社会的関心を高めることに主眼を置く。

平成 26 年度から取り組んでいる魚沼市教育委員会主催「温かい学級づくり支援事業」において、当校は「能動的に相手の話を聴き、本音で交流できる集団（＝聴き合い、高め合う集団）」を育てることとしています。この集団づくりが、キャリア発達を促す土台となると捉え、以下の内容に取り組んでいます。

1 ルールとリレーションの確立に向けた取組

(1) 全校一斉 SSE によるルールの確立



～元気朝会・絆タイム～

対人関係のルールを確立するために、全校体制で必要なターゲットスキルを共通理解する「元気朝会」、それを発達段階に応じてロールプレイし、一般化へつなげる「絆タイム」を毎月 1 回実施しています。

(2) 「聴き合い」によるリレーションの確立



～つなぐタイム～

全校で週に 1 回 15 分間、じっくりと学級の仲間の話を聴く時間を設けています。能動的な聴き手を

育て、話し手が「聴いてもらえた」といううれしさを味わうとともに、「もっと話したい」という願いをもちます。このような聴き合う経験を重ねていく中で、心を開き、本音で交流できる集団に育っています。



2 ルールとリレーションの活用場面

(1) 1 から 4 年生集団による遠足

普段は、6 年生を中心とした高学年児童がリーダーとなっていますが、この遠足は、4 年生がリーダーとなります。4 年生は、リーダーとしての役割を果たすために、それまでに身に付けたルールと学級内で温かさを味わったリレーションが発揮されます。1 から 3 年生は、そんな 4 年生と接することで、居心地のよさを味わいます。また、4 年生の姿を見て、目指すモデル像を具体的にイメージすることができます。



(2) 地域の祭りへ全校児童が出店で参加

堀之内地域は、毎月祭りが開催されます。11 月に開催される「お神送り」という祭りに、全学年が出店で参加し、地域の方と関わり合います。児童は、出店者という役割を与えられ、客として来店する地域の方に積極的に語りかけます。そして、地域の方から数多くの言葉をかけてもらい、やり遂げた達成感を味わいました。

3 おわりに

自分の役割を果たそうとする意欲や態度を育てていくためには、果たしたいという意欲をもったり、果たさなくてはならないという使命感をもったりする場が重要です。私たちは、その土台として、温かい集団づくりが必要だと考えています。

随 想



腰をすえた授業改善を

糸魚川市立市振小学校

市 村 豊

新潟県の最西端の市振小学校は、市振漁港の近く、日本海に沈む夕日を臨むことができる風光明媚な場所にある。朝早く出勤し、校舎を巡視しながら窓を開けると潮の香りを感じることができる。なんとも言えない、気持ちが落ち着く瞬間である。

市振小学校は、全校児童9名の小さな学校である。

毎朝、児童一人ひとりが教務室に入り、「おはようございます。今日は算数があるので楽しみです。」と、一日の目標や昨晚の家族の出来事などを話すのが伝統となっている。

地域と共に開催された運動会では、4人と5人で赤組と白組に分かれ、大きな声で応援合戦をしたり、個人・団体種目で競ったりして優勝を目指した。文化祭や地区音楽発表会でも、夏休み前から全校で練習に取り組み、合唱や合奏を披露して多くの方々に感動を与えた。

子どもたちのやる気とパワーを、校長を含め8名の全職員が支えた。クラブ活動、水泳や陸上競技の課外活動もである。

このように、子どもたちの笑顔や地域の方々の期待に応えるために、あらゆる行事に全校で、全力で取り組んだ。そのため、忙しさの中でも行事終了後の子どもたちや職員の充実感は最高であった。

しかし、学校本来の目的である授業は、子どもたちにとって、職員にとって学ぶことの充実感を感じられるものだったろうか。楽しいと感じる授業だったろうか。

校内研修テーマに沿って、管理職も含め全職員が授業を公開したり、実践をまとめたレポートを提出したりして、授業改善に取り組んできた。だが、行事に追われ、じっくりと授業に取り組めなかったことも多々あったように思われた。

教科の内容だけでなく、人間関係や自己肯定感を学んだり育んだりするのが授業である。腰をすえて、全職員が授業改善に取り組める28年度にしたい。



志をもち 地道にこつこつ

燕市立燕北小学校

田 中 稔 浩

新しい年が明けました。新年は気持ちも新たに、何か頑張ろうという気になります。そこで、今の私が励みにしている言葉を紹介したいと思います。

○地道にこつこつ

これは、某朝ドラの主人公である希がよく口にしていた言葉です。昔から言われている言葉ですが、パティシエになるという夢に向かって、笑顔でとことん頑張っている希を思い出すと、「よし、私も！」という気になります。

○あなたの志はなんですか？自分の命を何のために使いますか？

これは、某大河ドラマの登場人物である吉田松陰が、妹の文や松下村塾の塾生たちに問いかけていた言葉です。明治維新を迎える頃、世の中が大きく変化し先の見えない時代です。文も塾生たちも時代の大きな変化を感じ取り、どのように生きていくのか悩み、考え、そして行動していました。

では自分の志は何か？命をどう使うのか？ドラマを思い出しながら自問自答しています。

○熟読玩味せよ

これは、私が高校生の時の英語の先生の口癖です。英文の和訳に困っていると、「熟読玩味せよ」と渋みのあるだみ声で私たち生徒に檄を飛ばしていました。

何十年も前のことですが、不思議と耳に残っていて、文章を読むときにふと思い出し、背筋を伸ばして読み直しをしています。

○そこにいることが大切なんです

教頭としての実力のなさを痛感し、沈んでいた時に、校長先生から言われた言葉です。ふっと力が抜け、楽になりました。

もちろんいるだけではだめなことは分かっています。教頭としても、教師としてもやりたいことがまだまだあります。子どもたちの明るい未来のために「志をもち、地道にこつこつ」頑張っていきたいと思っています。

教育懇談会報告



新潟県小中学校教頭会

副会長 **西條 敏一**

(上越市立春日新田小学校)

1月19日(火)に、じょいあす新潟会館にて教育懇談会が開催されました。高井教育長様をはじめ、8名の県教育委員会からのご来賓の皆様をお迎えし、県小学校長会、県中学校長会の役員の皆様が熱心に研修及び協議会を行いました。私は、その場において、新潟県の教育を支えているのは、教育環境を整えるために、人的、物的に充実させてくれる教育委員会と、チーム学校として組織的に活動を推進している現場の教職員の絆だと改めて強く感じました。

冒頭、高井教育長様からは、「深刻化している少子化は、今や国家的な課題である。そのため、子どもたちへ指導する教育職に携わる者としての責任は重い。」というご指導がありました。そして、以下の4点についてお話がありました。

① 学力向上について

- ・全国学力状況調査の結果は、小学校は、全国と比べて高い水準であり、中学校も全国と同程度の水準である。結果については、優れた取組を募集しHPで公開していく。

- ・Web配信については、今後も充実させていく。県でも学力向上専門監を配置していく。

② いじめ問題について

- ・秋以降いじめによる自殺が他県でも起きている。人ごとでない。いつか起きるといふ危機感をもってほしい。

- ・「即時発見」「即時対応」を心がけてほしい。
- ・スマートフォン使用の適正化に向けてリーフレットを作成した。保護者の協力が欠かせないので、繰り返しの指導をお願いしたい。

③ キャリア教育の推進

- ・一人一人の夢の実現のため産業界とも連携していく。

- ・10月28日に夢創造ナビゲーションサミットを

開催した。

④ 国の定数改善動向について

- ・加配定数改善は厳しい状況にある。

というように、具体的な情報をお話いただきました。

研究協議においては、「地域の特色を生かし、地域と共に歩む学校づくり ～キャリア教育の推進～」について実践発表と活発な協議がなされました。

はじめに、長岡市立表町小学校から「やる気や学ぶ意欲を引き出す長岡の教育 熱中！感動！夢づくり教育」についてプレゼンテーション発表がありました。長岡市では、キャリア教育を「子どもに、将来、社会人、職業人となったときに必要となる基礎的な能力を身に付けさせる教育」と位置づけて実践を重ねています。今年度、特にキャリア教育の年間指導計画を「新潟っ子プラン」のモデルシートをもとに、教育活動の特性を生かしながら、「かかわる」をキーワードに、体系的な実践を行っていました。

次に糸魚川市立糸魚川中学校の発表では、「社会性育成」を一番の課題とし、地域と常に関係性を持ちながら活動を行っていることが出されました。地域と共に作った学校庭園、積極的に地域に出向き奉仕作業を行った地域貢献活動、地域資源であるジオパーク活動、多様な職場体験活動など、地域の特色をたくさん取り入れた教育活動が展開されていました。

協議会では、キャリア教育は、体験活動が中心に置かれ、たくさんの成果を生んでいるが、その中で、子どもたちは、どう変容したのか、的確に評価していかなければならないことと、地域の素材をどう活用していくのが大切であることが再確認されました。また、活動が何の学びにつながっているのか意識していかなければ、体験ありきになってしまうという指摘がありました。

私は、山積している課題に対し、教頭として、国の動向、県の要請など、常に新たな情報のもと、組織的に学校現場でどう対処していくか、みんなで知恵を出し合いながら進めていくよう心がけたいと強く感じました。

新潟県小中学校教頭会

[事務局]

県教頭会ホームページ

全国公立教頭会ホームページ

〒950-0911 新潟市中央区笹口2丁目7-17 和田ビル2F

E-mail n-kyotoh@crest.ocn.ne.jp

http://kenkyoto.ngt.ed.jp/

http://www.kyotokai.jp/

TEL (025) 244-8225

FAX (025) 244-5060